

横浜市 歴史博物館 NEWS 32 2012・3

◇対談いんたびゅー 李永植・鈴木靖民

**加耶の影響は日本文化の古層
日韓交流史を考える上でも重要**

◇企画展「海にこぎ出せ! 弥生人」によせて

◇企画展「生麦事件と横浜の村々(仮題)」に向けて

◇紙芝居二題 ー今年度の活動からー

◇〈図書閲覧室より〉点訳本『横浜 歴史と文化』の紹介

◇〈知ってますか?〉「市内中学校の職場体験の受け入れ」





韓国 仁済大学教授・博物館館長
李永植（イ・ヨン・シク）

●一九五五年、大韓民国ソウル市に生まれる。高麗大学校修士取得、早稲田大学文学博士。加耶史専門。現在、仁済大学校歴史考古学専攻教授、仁済大学校博物館館長を兼任。
●日本での主な著書 「加耶諸国と任那日本府」(吉川弘文館、一九九三年) 「任那日本府を通じてみた六世紀の加耶と倭」(東アジア古代文化、二〇一〇) (大和書房、二〇一〇) 「加耶諸国と古代日本の交流史研究―日本列島における加耶関連の文献と遺跡を中心に―」(訪日学術研究者論文集「歴史」二六(二〇一〇)など。

「いんたび紗」

加耶の影響は日本文化の古層 日韓交流史を考える上でも重要

◎当館の企画展「火の神・生命の神」では日本列島の古代遺跡から出土するカマドとその信仰をテーマにしました。先生は古代の朝鮮半島で六百年ほど続いた加耶(加羅)の歴史が専門で、加耶と倭(古代の日本列島)の関係を探る中で、カマドにも注目されています。そのことは、企画展関連イベントとして開催したシンポジウム「古代における加耶と倭の文化交流」で講演していただいたのですが、韓国におけるカマドとカマド信仰の状況は。

李 三〇年ほど前、日本でカマドについての論文がいくつか出て、カマドは韓国から日本に渡ったことも明らかにされたのですが、韓国では当時、あまり研究されていませんでした。竪穴住居の発掘調査でも、ほとんど確認されていなかったのです。カマ

ドの神についても、比較的新しい時代に生まれたのではないか、という見方が一般的でした。その後、韓国でもカマドの考古学的研究が進み、加耶のカマド文化の特徴も浮かび上がってきました。移動式カマドが他地域より多く出土し、廃棄する際の特別な儀礼の跡が見つかっています。これらは日本のカマド文化とつながりがあることから、カマドとその神は、加耶から同時に玄界灘を越えて、日本列島の各地に伝わったと考えられます。

北海道にまで伝わる

館長 加耶は朝鮮半島の南端にあり、日本列島に最も近い隣りの地域でしたから、倭との交流は活発だったのです。それを代表する事象が、カマドとカマドの神の信仰、

と言えると思います。カマドは大体、四世紀後半から五世紀前半頃、西日本に伝わりました。それまでの炉(イロリ)と全く違う煮炊き方法をもたらし、暖房機能などもあるもので、いわば生活革命が起こり、東日本まで普及しました。企画展で写真パネルにより紹介したのですが、北海道の擦文文化時代(七―十三世紀頃)の住居跡からも、立派なカマドを備えた住居が見えられました。今の韓国から日本列島の西から東へ、さらに北海道まで伝わったカマドとその信仰は、歴史の上で生活や社会の変化の様相を照らすテーマ、といった大きな意味で捉えられると思います。

李 カマドの伝播は鉄や鉄器文化、さらに鉄器と同様、高温で焼く必要のある陶質土器、日本に入って須恵器の基となったのですが、そういった文化の伝播とも関係があるのではないかと考えています。その中で加耶は重要な役割を担ったはずで、韓国で古代史を解釈する場合、加耶の後に台頭した百済のことは語り語られ、加耶史が専門の私としては不満ですが、日本でも、古代文化に見られる韓国系統のものは全て百済から来た、という話ばかりです。少なくとも仏教以前の古代日本においては、加耶の文化が入っていることに、もう少し注目してほしいのです。

外来を意味する「から」

館長 日本に加耶の文化が入り、文化の「古層」をつくった後、百済の文化が入って「新しい層」をつくりました。日本にとって百

済の仏教文化の影響が強かったもので、加耶の層が見えにくくなったのではないでしようか。北東の方にあった新羅の文化も、加耶経由で、例えば新羅から加耶に移り住んだ人が、さらに日本に来て伝えた、といったことも考えられるので、そういう面も含め、加耶のことはもっとクローズアップするべきでしょう。日本で、よその国を指す「から」という言葉が古代以来、近世まで使われ、唐、韓などいろいろな文字を当て、「からかみ(唐紙)」のように、外来のものを表す時にも用いられてきました。この「から」は、加耶と同意の「加羅」になむ、という説はかなり有力ではないかと考えます。

『日本書紀』の勉強のため

◎加耶史とそれに関係する倭との交流史を、研究のポイントにするようになったきっかけなど、ありますか。

李 大学の入学試験の面接で、何のために歴史考古学科に入りたいのかと聞くと、ほ





横浜市歴史博物館館長

鈴木靖民 (すずき やすたみ)

●一九四一年、北海道に生まれる。一九六六年、國學院大學文学部研究科博士課程修了。日本古代史、東北アジア古代史専門。一九八七年より、國學院大學教授。二〇一一年七月、横浜市歴史博物館館長に就任。

●主な著書『日本古代国家史研究の歩み』(新人物往来社、一九八〇年)『古代対外関係史の研究』(吉川弘文館、一九八五年)『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、二〇一二年)『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、二〇一二年)など。

とんどの学生は「日本や中国による古代史のわい曲を自分がただす」などと言います。しかし私には、そういう意識はなかったのです。始まりは、歴史年表を見ていたら、加耶には六世紀に及ぶ歴史があるのに、加耶のことで私が知っているのは加耶琴だけ、六百年の間にたくさん人間が暮らしていたはずなのに、と思ったことがきっかけです。加耶に関する韓国の文献史料は『三国史記』と『三国遺事』だけで、修士論文を書くには、史料がなかったのです。そこで調べてみたら『日本書紀』に「任那」、つまり加耶のことがいっぱい書かれていると分かり、ちょうど機会もあったので、日本に来て『日本書紀』を勉強しました。『日本書紀』の中には、韓日の争点の一つである「任那日本府」のことも書かれていたもので、韓日関係史も志すようになりました。

考古学を基に読み直す

◎これまでいろいろ研究されていると思いますが、今後取り組みたいテーマとかは。
李 関係史をやっている人に對し、よく「両方とも詳しく知らないじゃないか」という非難があります。その影響というわけ

でもないのですが、私自身、加耶のことをよく知らないのではないかと、『日本書紀』などによると、加耶には十二、三の国があり、中には詳細が分からない国もありますが、それらの国々の歴史の復元に興味をもっています。新しい文字史料はないのですが、考古資料は豊富にあつて、ある程度の蓄積ができたので、文献の中の非常に短い文章でも、新しく考え直すことができるようになりました。

社会教育活動を重視

◎大学博物館の館長でもあるので、韓国の博物館の状況について、お話しいただきたいのですが。
李 二〇〇九年が韓国の博物館一〇〇周年で、いろいろな行事がありました。入場無料も行ったのですが、入場者数はそれほど変わりませんでした。今、韓国の博物館は八百ぐらいあり、国立博物館に見られる特色としては、まず大型展示、それから社会教育重視があります。そのためキュレーター(学芸員)だけでなく、エデュケーター(教育活動担当)の採用が増えています。逆に、博物館での考古学的な発掘調査

は少なくなりました。一方、博物館の設立が許可制から申告制に変わり、個人で遺物百点でも、申告すれば「博物館」を名乗れるようになったので、民間のものが増えています。テーマもバラエティーに富んでいます。自治体による博物館設立もかなり多くなります。地域で新たにイベントを立ち上げる動きが盛んで、自治体の博物館はその中心的な役割も担っています。

◎大学の博物館の傾向などは。

李 大学博物館の活動は、それほど活発ではないのですが、社会教育プログラムにはかなり力を入れるようになりました。私の勤める仁済大学は、医学から始まった大学なので、医学資料館のような博物館ですが、社会人対象の「博物館大学」を一年間単位で開いています。年ごとにテーマを決め、昨年は「ミュージアム」ということで、ヨーロッパのミュージアム巡りも実施しました。こういう企画はとても人気が高いのです。ほかに家族ぐるみで参加できるプログラムとして、仁済大学では「文化財探検隊」と題し、昔の地図と今の地図を重ねて、昔の地図をもとに遺跡を探して回り、そのポイントをもとに地図に記録する、という企画をやっています。一方的な説明をただ聞くだけ、というのではなく、何かをやりながら遺跡や遺物に親しんでもらう、というやり方を重んじています。

異文化理解プログラム

◎当館について、「ご意見などありましたら、聞かせてください。」



李 韓国の大学の教育プログラムで、近頃はやっているのが「多文化プログラム」です。韓国にも労働力や結婚相手として来る外国人が増えてきて、そういう人たちに短期間で韓国になじんでもらうには、歴史や考古遺物がかかり役に立ちますから。外国人が多く住み、多文化という特色や、異文化理解が課題になっている、という点では横浜も共通すると思います。この博物館でも、社会教育活動の中に多文化という視点を入れたプログラムを行ったら、この博物館の特性が打ち出せて、異文化交流などを促せるのではないのでしょうか。それからもう一つ、近くにある地下鉄のセンター北駅を「博物館駅」とか「横浜歴史博物館」などと変えられないのでしょうか。私の住む金海では、国立博物館の前に最近できたモノレールの駅を「博物館駅」としたら、それだけで大きなPR効果が出ています。

館長 それはよいご提案です。いろいろ興味深い話と併せ、ありがとうございます。

企画展

「海にこぎ出せ！ 弥生人」によせて

弥生時代は日本列島で本格的な稲作が始まった時代です。それでは弥生時代の人々は、おコメだけを食べて生活していたのでしょうか？もちろんそんなことはありません。弥生時代の人々も魚介類などの「海の幸」を食べていましたし、海を越えて遠くの土地の人々と交流をしていました。今回の企画展では、そのような弥生人と海との関わりに焦点を当ててみたいと思います。そもそも水田で稲を作る技術は朝鮮半島



薄磯貝塚出土の銚頭と銚
鹿角製の銚頭と猪牙製の銚。組み合わせた状態を想定復原したもの。
福島県いわき市教育委員会蔵。



差洪遺跡出土貝輪
オオツタノハ製の貝輪。弥生時代中期の墓に副葬されていたもの。
茨城県立歴史館蔵。



青谷上寺地遺跡出土線刻絵画板
長さ73.2cmの板に大小の船を表した線刻がみられる。弥生時代中期のもの。
『青谷上寺地遺跡4』財団法人鳥取県教育文化財団2002

から海を越えて伝わってきました。大塚遺跡などに残した人々も、おそらくは舟を移動手段として関東地方にやってきたと考えられています。したがって、弥生人が海で活動していたことは当たり前のことだといえるかもしれません。縄文時代に比べると数は少なくなりますが、横浜市内でもいくつか弥生時代の貝塚が見つかっています。例えば磯子区の三殿台遺跡では、長径一四メートル近い大型住居である三〇六号住居址の柱穴の中に、マガキやハマグリ、アカニシなどの貝が捨てられていました。港北区の半尻台遺跡では、環壕の中に貝層が形成されていたようです。弥生時代には海面の高さは現在と同じ位になっていますから、これらの遺跡が当時は海のすぐ近くにあったというわけではありませぬ。海岸から数キロメートル離れた丘の上に暮らす人々も、海の資源を利用し

ていたのだということがわかります。大塚遺跡など貝塚が作られなかった集落でも、海の幸を日常的に食べていたのではないかと推測することができます。

神奈川県南東部の三浦半島では、弥生時代の人々がより密接に海と関わって暮らしていたことが分かる遺跡が見つかっています。海岸の崖が波で削られてできた洞穴に、弥生時代の人々が生活した痕跡が残されているのです。洞穴の中には灰層と貝層が厚く積み重なっていて、骨角製の漁具などが出土しています。このような洞穴遺跡を残した弥生人は、かなり専門的に漁に従事していた集団だったのではないかと考えられています。

これらの洞穴遺跡から出土する漁具の中に、鹿の角で作られた回転式の銚頭とよばれるものがあります。ヤリのように柄に付けて獲物に突き刺す道具ですが、獲物の体に刺さった後に先端部が柄から外れるような構造になっています。先端が柄から外れるというのはちょっと不思議な感じがするかもしれませんが、大きな獲物を確保するには、柄にしっかりと固定するよりも都合がいい面があるのです。このような回転式銚頭は縄文時代後晩期の東北地方で盛んに使われていました。弥生時代になると、こ

のタイプの銚頭が北海道から東海地方まで広がります。遺物の分布の広がりがそのまま人々の移動範囲を表しているわけではありませんが、当時の漁民は私達が想像する以上にダイナミックに活動していたようです。

また当時の人々の交流を物語る格好の資料として、オオツタノハ製の貝輪があります。オオツタノハはカサガイ科の貝で関東地方の海には生息しておらず、南の島でしか獲ることができません。このオオツタノハ製の貝輪は、群馬県や茨城県など北関東の弥生時代のお墓に副葬されていました。最近の調査で、三宅島にこのオオツタノハを獲って貝輪を作っていた遺跡があることが分かりました。また三浦半島の洞穴遺跡からも、半製品（加工途中の製品）が出土することが知られています。おそらく半製品が三宅島から三浦半島に水揚げされ、貝輪に加工されて消費地まで運ばれていたのだと思われます。遠く離れた南の島に「ぜいたく品」ともいえる腕輪の材料を採りに行くシステムが確立されていたのです。

こうした弥生人のすがたをお伝えするために、北は北海道から西は鳥取県まで、広い地域の資料を展示します。これまでとは違った視点から弥生時代を見つめ直す機会となれば幸いです。

企画展

「生麦事件と横浜の村々(仮題)」に向けて

生麦事件は、文久二年八月二一日
(二八二年九月一四日)、東海道沿いの武

蔵国橋樹郡生麦村(現横浜市鶴見区)で
発生した、外国人殺傷事件です。江戸を



ペアト撮影 ワーグマン「生麦事件図」
ワーグマンが描いた水彩画を、ペアトが撮影した写真。馬に乗った右端の男性(画面中央付近)がリチャードソンか。
横浜市歴史博物館所蔵。

出発した薩摩藩島津久光の一行が、横浜から騎乗でやってきた四人のイギリス人に、行列を妨害したとして斬りつけ、イギリス商人リチャードソンが死亡、マーシヤルとクラークの二人が重傷を負いました。

今年の夏、博物館ではこの生麦事件に関わる企画展を計画しています。事件そのものについてはもちろん、背景にあった当時の状況や、その後の影響などもあわせて紹介する予定です。現時点で考えている主な項目は、次の通りです(変更する場合があります)。

- 生麦事件について
- 開港と外国人遊歩区域

- その他の外国人襲撃事件
- 幕府の治安対策
- 生麦事件が与えた国内への影響
- 横浜と周辺の村々に与えた影響

中でも今回、新たに光を当ててみたいと思ったのは、これまであまり取りあげられてこなかった、横浜と周辺の村々に残された記録です。実は村々には、生麦事件そのものの記録はあまりありません。しかし、生麦事件や、その他の外国人関係事件がもととなって生じた政治や社会の変化が、地域の人々が書き残した日記や御用留(幕府や領主からの触書などを書きとめた帳面)などの記事から読み取れるのです。これらの記事は非常に断片的で、探すことは簡単ではありませんが、ひとつでも多くの事例を紹介できるように、現在鋭意調査中です。

さまざまな催し物も検討中です。会期がちょうど夏休みにあたるため、小・中学校などの自由研究のテーマとしてご利用いただけるよう、ワークシートなどの作成や、ポイントをしぼった親子向け展示解説を予定しています。これまで読み下し文だけをつけていた古文書に、現代語訳を加えることも検討しています。もちろん、大人の方にもお楽しみいただけるよう、詳しい展示解説や講座、講演会なども計画しています。

これら催し物の詳細は、決まり次第、当館のホームページなどにてお知らせしてまいります。

また、横浜開港資料館でも生麦事件に関する展覧会を同時開催します。こちらの展示では、イギリスをはじめとする諸外国との外交問題や、イギリス・フランスの軍隊の横浜駐屯、横浜の外国人社会への影響などを、イギリスで発見された新資料をはじめとする豊富な資料でたどります。

今年、平成二十四年(二〇二二)は、生麦事件発生から一五〇年目にあたります。この夏は、ぜひ両館にお運びいただき、横浜に生きた人々にとつての生麦事件とは何だったのか、一緒に考えてみませんか。

(小林紀子)

企画展「生麦事件と横浜の村々(仮題)」

平成二十四年七月二八日(土)～九月三日(日、祝)

会場Ⅱ 横浜市歴史博物館 企画展示室

共催Ⅱ 横浜開港資料館 企画展「生麦事件と幕末の外交」(仮題)

平成二十四年七月一九日(木)～二〇月二日(日)

会場Ⅰ 横浜開港資料館 企画展示室

※展示の詳細や休館日などは、それぞれの館の催し物案内やホームページをご覧ください。

街頭紙芝居が博物館資料に
仲間入り

二〇一一年一〇月、磯子区岡村にお住まいの鷺塚隆さんから、一昨年夏の企画展「大紙芝居展 ―よみがえる昭和の街頭文化―」を開催するきっかけになった街頭紙芝居コレクション、二三五巻をご寄贈いただきました。

街頭紙芝居は、街の空き地やひろばなどで演じられ、当時の子どもたちをとりこにした娯楽の一つです。昭和三五年（一九五〇）頃の東京では約三千人の人たちが街頭紙芝居を演じ、子どもたちが買求めた水飴などの売上で生計を立てていました。一つ一つのお菓子はわずかな金額ですから、いかに多くの子どもたちが見ていたのかが想像できると思います。街頭紙芝居は、毎日子どもたちが見



寄贈された街頭紙芝居。街頭紙芝居は一枚一枚描かれた1点ものです。絵を見ただけでもワクワクします。



一昨年の「大紙芝居展」で紙芝居を演じる鷺塚さん。「プロ」の技は今でも健在です。



横浜市教育委員会の山田教育長より鷺塚隆さんに感謝状が贈呈されました。

に出来ないかと商売が成り立ちません。そのため必ず次回が気になるような良いところで一話が終わわり、翌日も子どもたちが見ずにはいられないような物語の構成で、少ない街頭紙芝居では二〇巻、多いものでは一〇〇巻を超えるものもありました。このような連続したもの、ほのぼのとした笑いをさそう一話完結のマンガものやクイズを組み合わせ、一回につき二〜四巻を演じていました。けれども、昭和三〇年代後半以降、テレビの普及や子どもたちの遊びの多様化により、急速に姿を消していきました。

今回寄贈された紙芝居は、町屋（東京都荒川区）にあった街頭紙芝居の貸元「一誠会」が制作したものです。タイトルを見ると、テレビやマンガで人気を集めた物語に似せた「快男児ハリマオ」、「まぼろし探偵長」、「少年ジェットマン」、男の子があこがれたバイクの物語「少年スピード王」、怪獣が

出てくる「大怪獣ダイラ」、時代劇の「風雲流五郎」、つらい目に遭いながら健気に生きる女の子が主人公の「幸運の少女」、「愛の山河」などがあり、当時の街頭紙芝居の幅広いジャンルはもちろん、タイトル自体が子どもたちの気を引くために名付けられたことをうかがい知ることができます。また街頭紙芝居は資料の散逸が著しいことが知られていますが、鷺塚さんのコレクションは連続しているものがほとんどで、なかには第一巻から最終巻まで全巻揃っている希有なものもあります。このようにまとまっている街頭紙芝居はとても貴重と言えるでしょう。

鷺塚さんは昭和二〇年から東京や横浜で街頭紙芝居を演じて生計を立てていました。ところが、昭和三〇年代に入ると街頭紙芝居では食べていけなくなると感じるようになり、昭和三二・三三年頃に紙芝居や道具の一切を手放して野菜を商う仕事を始めました。新しい商売が軌道に乗ってしばらくした頃、

チボリ兄弟舎再演！

昨年八月二八日、チボリ兄弟舎が一年ぶりに博物館で紙芝居を演じてくれました。アコーディオンや鉦・太鼓を鳴り響かせ、「はなくそハナちゃん」や「離人間」といった自作のオリジナル紙芝居が始まると、エンタランスホールは爆笑の嵐に包まれました。

チボリ兄弟舎は、仙台市（宮城県）を拠点に、瀧原文法さん・香奈子さんご夫婦で活動している紙芝居ユニットです。チボリ兄弟舎の紙芝居は、文法さんの作画による荒唐無稽

既に廃業した横浜の貸元が古い街頭紙芝居を持ってしていると聞き、交渉してその紙芝居と舞台を譲り受けました。再び紙芝居を手に入れた鷺塚さんは、昔のように子どもたちの前で、また地域の人に請われて、紙芝居を演じるようになりしました。博物館でもこれまでに、「大紙芝居展」などで何回か演じていただきました。今回ご自身が実演に使うものなどいくつかを手元に残したほかは、全てご寄贈いただいた次第です。

今年の一月二八日（土）にはこの紙芝居を活用し、博物館感謝デーの一環として「復活！街頭紙芝居」を実施しました。鷺塚さんには往年の名演をご披露いただいたほか、街頭紙芝居なつかし亭岸本茂樹さんに「まぼろし探偵長」と「少年スピード王」を実演していただき、街頭紙芝居の面白さを多くの方に見ていただきました。

博物館では、今後も機会を設け、この街頭紙芝居を活用していきたいと考えています。



「はなくそハナちゃん」表紙。かつての街頭紙芝居と同様、瀧原文法さんの手で一枚一枚描画、彩色された紙芝居は、独特な雰囲気を感じさせます。

なオリジナル紙芝居を、鉦と太鼓を鳴らしながら多彩な声色こゝろごゑを使って文法さんが語り、さらに香奈子さんのアコーディオンによる効果音が加わるという、あまり例のないものです。一昨年の大紙芝居展で実演していたところ、エントランスホールにいた観客をとりこにし、一一時、一三時、一五時と一日三回実演した紙芝居を全て見た方もいたほどでした。

二〇一一年三月一日に東日本大震災が起きました。地震と津波によって想像を絶する被害が東北地方から関東地方に至る太平洋沿岸に及び、仙台市も地震と津波で大きな被害を受けました。幸いなことに二人は無事でしたが、家の近くまで津波が押し寄せ、また職場の同僚が亡くなるなど、それまでの生活が一変し、紙芝居どころではなくなりました。

大震災から二ヶ月余りが過ぎた昨年五月、博物館の受付に「今年はチボリの紙芝居は見られないの？」というお問い合わせをいただきました。さらに夏が近づくとミュージアム



新作で初演となる「ジャスの戦士イグナル」を説明するチボリ兄弟舎の瀧原文法さん・香奈子さん。

ショップにも再演希望の声が寄せられました。震災の影響があるのでおそろく難しいと思いつつ連絡をしたところ、快諾かいだくしていただき、昨年八月の再演が実現したのです。

紙芝居には、人と人が相対して演じること
で生み出される「場」の一体感があります。観客も演じ手も相手の顔を見ながらなので、どちらも相手の状況をすぐに感じ取れます。観客は演じ手の上手下手、本気度と熱心さをすぐに感じとり、演じ手は相手が面白がつて

いるのか、話が伝わっているのかが即座にわかります。うまくいけば、それが一体感を伴う「場」の雰囲気となって現れるのです。博物館でチボリ兄弟舎が紙芝居を演じているとき、演じ手と観客が一体になった場の雰囲気がありました。観客がその一体感を感じたからこそ、再演希望の声を寄せていただいたのではないかと思います。

再演では、新作となる「ジャスの戦士イグナル 第一巻 独眼竜の死装束」という紙芝居も上演されました。ジャスとは宮城県で学校の体操着であるジャージを意味する言葉です。ローカル色豊かで、かつ関東の人にもわかるネタを織り交ぜたオリジナル紙芝居は大いに盛り上がりしました。

大人気のチボリ兄弟舎、今年の夏も新作を携えて博物館にやってきます。公演は八月一八日（土）・一九日（日）。請うご期待！

（刈田 均）

この日三回の公演後、多くの方が被災地への想いを寄せてくださり、その合計は二万五千五百八円になりました。このお金は、チボリ兄弟舎の二人が、大きな被害を受けた岩手県下閉伊郡山田町に義援金として寄付したことを報告いたします。

図書閲覧室より

紹介 点訳本『横浜 歴史と文化』



点訳『横浜 歴史と文化—開港一五〇周年記念—』横浜市ふるさと歴史財団編、視覚奉点訳部会点訳、神奈川県ライオンセンター刊、2011と原本

昨秋、神奈川県ライオンセンターより『横浜歴史と文化』の点訳本全一六巻を「寄贈いただきました。『横浜 歴史と文化』は、二〇〇九年に横浜開港一五〇周年記念事業の一つとして、横浜市ふるさと歴史財団が中心となり、研究者が総力をあげて編集し刊行されたものですが、この本の点訳をライオンセンターの利用者の方が希望されたことがきっかけとなり、今回の点訳本が完成したとうかがっています。

一昨年一月、図書閲覧室におそらく点訳ボランティアであろう方が、遺跡の「よみ」を知りたいと来室されました。あれから一年、三四五頁一冊の原本が、なんと一六分冊のボリュームになるといふこの大事業に、点字の知識が皆無の筆者は、ただただ感動、感謝の気持ちを感じるばかりです。点字知識が無いなりに、図書室スタッフが、この巻は原本のどの部分だろうかと四苦八苦しながら調べてくれたところ、一章から六章に約二巻ずつを費やし、主要参考文献や掲載図版一覧、あとがき、さらに出土石器の図版や地図などに至るまで、しっかりと点訳、触図ふしずされていることがわかりました。視覚障害を持つ人々のみならず、暗眼者に対しても同様に学が喜びを与えてくれるこの点訳本を、是非手に取り、点字を身近に感じていただきたく思います。ご関心のある方は、博物館図書閲覧室へおたずねください。

（古川恵美）

※触図＝凸図、触地図。視覚障害のある方が触って分かるかたちにした絵や図。

??????? 知ってますか ????????

市内中学校の職場体験の受け入れ

博物館では、平成16年度から市内の中学校の職場体験の受け入れを行っています。平成23年度は、東山田、荏田南、中川中学校の生徒達が、数ある受け入れ先の中から横浜市歴史博物館を選び、先生との面接などをくぐり抜けて来てくれました。

博物館には様々な仕事があることを知ってもらおうと、私たちスタッフも今回は何を体験してもらおうかと毎回頭をひねります。体験学習指導や蔵書整理、ミュージアムショップでの販売補助経験など、中学生にとっては今後の進路を考える上で、貴重な体験となっているようです。私たちも、若いうちに博物館を身近に感じてもらうことはとても大切だと思いますし、また彼らの将来の夢への一助を担うことができれば本当にうれしい限りです。

同時に、博物館での経験に対して、生徒達がどのような思いを心の内に持ち帰ったのか、気になるところでもあり、責任を感じるところでもあります。ご来館時に職場体験中の中学生らに出会うことがありましたら、ぜひ温かいエールをお願いします。



スタディサロンの蔵書点検（荏田南中）

これからの催しもの

- ◎企画展「海にこぎ出せ！ 弥生人」 4月7日(土)～5月27日(日)
- ◎収蔵資料展「相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村と小岩井家」(仮称) 6月9日(土)～7月8日(日)
- ◎企画展「生麦事件と横浜の村々」(仮称) 7月28日(土)～9月23日(日)
共催:横浜開港資料館 企画展「生麦事件と幕末の外交」(仮称) 7月19日(木)～10月21日(日)

表紙写真は

薄磯貝塚の弥生時代中期前半の貝層から出土した骨角製の漁具など。いわき地方では縄文時代から弥生時代にかけての貝塚が多く見つかっている。福島県いわき市教育委員会蔵。



横浜市歴史博物館 日誌

二〇一二年一月一日～二〇一二年三月三十一日

- 10月1日 企画展「東海道保土ヶ谷宿」開催(11月23日まで)
体験学習室ミニ展示「江戸時代の旅」(11月30日まで)
- 10月2日 企画展関連研究講座「保土ヶ谷宿の成立と確立」
企画展関連フロアレクチャー
- 10月8-9日 体験学習「土偶づくり」
- 10月16日 企画展関連研究講座「本陣・問屋と軽部(河部)家」
企画展関連フロアレクチャー
- 10月17日 都筑アートプロジェクト2011「ニュータウンドリミングー遺跡とアート」
(11月4日まで)
- 10月22日 企画展関連特別講座「保土ヶ谷宿をめぐる文芸と文人たち」
ふるさと横浜探検「恩田川支流、梅田川と新治の里山を訪ねて」
- 10月23日 企画展関連フロアレクチャー
- 10月29日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
- 10月30日 企画展関連「よこはま三宿「電子かわらばん」(スライドショー)上映会」
企画展関連フロアレクチャー
- 11月3日 企画展関連「桂歌助師匠による落語会」
「都筑区民まつり」出展
- 11月5日 企画展関連フロアレクチャー
体験学習「土偶づくり」野焼き
- 11月6日 企画展関連研究講座「稚子河岸の盛衰」
企画展関連フロアレクチャー
- 11月12-13日 企画展関連「よこはま三宿「電子かわらばん」(スライドショー)上映会」
体験学習「ぞうり編み」
- 11月13日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月16日 ふるさと横浜探検「江ノ島周辺の史跡散歩」
- 11月19日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月20日 企画展関連研究講座「保土ヶ谷宿と助郷村々」
企画展関連フロアレクチャー
- 11月23日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月26日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」
- 12月1日 体験学習室ミニ展示「ちよと昔を探してみよう」(3月30日まで)
- 12月10日 企画展「館蔵 市指定文化財展「横浜の遺跡展ー弥生時代後期の横浜ー」
開催(1月9日まで)
- 12月10-11日 体験学習「風づくり」
- 12月17日 企画展関連フロアレクチャー
第21回エントランスホールコンサート「ノエルに贈る歌の花束」
- 12月24日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代I】」
- 1月8日 企画展関連講演会「横浜市北部の弥生時代後期を探る」
企画展関連フロアレクチャー
- 1月12日 「近世史講座」(2月9日まで全5回)
- 1月14日 収蔵資料ミニ展示「旧全沢基術コレクションー旧相模国鎌倉郡資料」
(1月22日まで)
- 1月18日 「古代史料講座」(2月15日まで全5回)
- 1月21日 企画展「火の神・生命(いのち)の神ー古代のカマド信仰をさぐるー」開催
(3月20日まで)
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世I】」
- 1月21-22日 体験学習「紙すき」
- 1月22日 収蔵資料ミニ展示解説
- 1月28-29日 開館17周年記念博物館感謝デー
- 1月29日 開館17周年記念特別講演会「東部ユーラシアと日本」
企画展関連フロアレクチャー
- 2月5日 企画展関連シンポジウム「古代における加耶と倭の文化交渉」
- 2月11日 企画展関連フロアレクチャー
収蔵資料ミニ展示「戦前グラフィック誌が伝えた色と世相」(2月19日まで)
体験学習「縄文の仮面づくり」
- 2月12日 「土器づくり教室」(3月17日まで全4回)
- 2月17日 企画展関連遺跡見学バスツアー「千葉県の古代遺跡と房総のむらを訪ねて」
- 2月19日 収蔵資料ミニ展示解説
- 2月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世I】」
- 2月26日 企画展関連ミニ講座「王権のカマド神について」
- 3月3日 企画展関連講演会「カマド神と墨書土器」
- 3月10日 収蔵資料ミニ展示「石渡江逸の版画作品ー昭和初期、横浜の風景」
(3月18日まで)
- 3月11日 企画展関連ミニ講座「平野神と園神神」
- 3月18日 「土器づくり教室」野焼き
企画展関連フロアレクチャー
収蔵資料ミニ展示解説
- 3月23日 ふるさと横浜探検 バスツアー「国史跡八王子城跡を訪ねて」
- 3月29日～31日 春休み紙芝居ひらば
- 3月31日 体験学習室ミニ展示「私たちが作った縄文土器展」(4月5日まで)
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代I】」

編集後記

卯月というより桜月。この季節、桜の開花とともに新生活へ向かう気持ちになります。生活と自然とのこうした絆結びつきは捨てがたいものですね。さて、「海にこぎだせ！ 弥生人」で新年度が幕開けします。弥生人はどんな風に自然を享受していたのでしょうか。(f)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区 分	個 人	団 体 (20人以上1人につき)
一 般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「濱ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(1時間200円)
●インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

